

五感 澄ませば触

赤ちゃんのお尻のような滑らかさだ。天然砥石の表面に指をはわせ、うっとりした。

亀岡市東本梅町の土橋要造さん(62)は、地元の山から石を切り出し、天然砥石を作る。135年続く家業の4代目を担う。

原石を成形し、動力を使って研磨剤と水で表面を平らにする。その後、目の粗い人造砥石を用いて手作業で磨く。手を動かしては止め、表面をなでる。指先に神経を集中。「つるつる、超つるつる」。自らの頬にも当て、感触を確かめる。石によって個性があり、目指す「つ

天然砥石 (亀岡市)



天然砥石を指でなで、表面の仕上がりを確かめる土橋要造さん(亀岡市東本梅町)

滑らかさ頬当て確認

「つるつる度合い」は微妙に違う。

京都市の高雄から愛宕

山、亀岡市馬路町、南丹市

八木町、亀岡市東本梅町に

かけて、砥石に最適な鉱脈

が走る。かつては、それぞ

れの地域で砥石作りが盛ん

だったが、山を掘り尽くしたり、人造砥石に押され、

今では土橋さんだけになっ

た。

「今、日本刀用の良い砥

石がない。でも、それでは

日本刀がなくなってしまう

う。何とかしたい」。伝統

文化を支える自負がある。

(松本邦子)



味、聴、視、嗅、触。ヒトの五感はとても主観的だ。この感覚こそが人々の営みを豊かにする。五感から、さまざまな事象を追う。